

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次

- ☆外に出ようボランティア募集 ……2
- ☆移動介護実習報告 ……3
- ☆虫めがねパート1 ……4
- ☆虫めがねパート2 ……5
- ☆学習会 ……6
- ☆実習所報告、夕会便り ……7
- ☆署名報告 ……8
- ☆太田さん連載 ……9
- ☆小野塚さん連載 ……10
- ☆スケジュール、
寄付のお礼、休載のお知らせ…11
- ☆編集後記 ……12

2008年
3
月号



去年は荒川線沿線！



外に出よう参加者募集！

今年の冬は、東京にも2年ぶりに雪が降り、寒い冬でしたね。皆さんの健康はいかがでしょう？僕は、寒いのが苦手なので、早く暖かくなってほしいと心待ちしています。

田中 聡



～ 港区歩いて川柳を ～

障害者は外に出ようとは……。今から約30年前、「風の子会」が設立された当初、独自の行事として、また障害者とボランティアの交流を図る目的で行われていましたが、今現在ではその趣旨に賛同して下さる参加団体も徐々に増えてきました。

初期の「外に出よう」では、車椅子にロープを付けて高尾山に登ったり、鎌倉でのんびりしたりととてもゆったりした時間を過ごしました。ただ最近では、悲しいかな次世代の担い手となる若者の参加者が減り、年々規模は縮小されてます。が、車移動の多い障害者（施設・病院と自宅の往復）にとって充実した日を過ごせる素晴らしい一日となっています。また普段障害者と接する事のない健常者がボランティアとなって障害者と一日を過ごせる日でもあります。2008年の「外に出よう」は、足もとを見直そうという意味で、自分たちの住んでいる港区を歩いてみようということになりました。3月下旬から5月上旬まで参加者を募集し、全体集会で障害者とボランティアさんとの顔合わせ及び当日回るコースを決めて臨んでいただきます。実施日は**5月25日（日）雨天延期の場合は6月1日（日）**になります。参加した方からは、多くの喜びの声が寄せられています。

詳細は風の子会内 外に出よう事務局 担当：岡本まで。

日程： 3月14日～5月10日（ㄨ切）参加者募集

5月17日（土） 全体集会

5月25日（日） 実施日
～雨天延期の場合 6月1日（日）

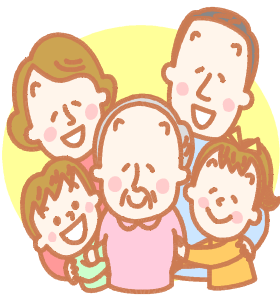
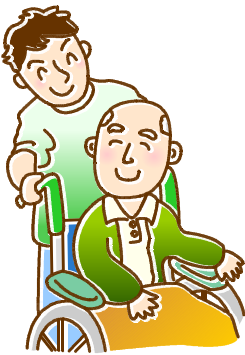


三木 直人



横断歩道を渡りましょう

移動介護 実習報告



去る二月二十九日、港区から委託されて、移動介護の実習を行いました。実習所に僕たちが着くと、もう実習を行う人たちは来ていました。その数は十名くらいでした。その殆どの人がヘルパーさんでした。ヘルパーさんとは大変な職業で、家のことばかりをやっているのではなく、お年寄りや障害者の方たちを、車椅子で買い物とか散歩とかに連れて行くのも仕事の一つです。ですから車椅子の介助とか時には電車の乗り降りにも介助することがあるのです。こういう経験も大切な一つなのです。

はつきりいいですよと、ヘルパーさんは僕たちのことを怖がりすぎているのではないのでしょうか。移動介護実習を使って、もつともつと障害者に接してもらいたいと思っています。車椅子を止めて顔をのぞき込んで、コミュニケーションを取っていただきたいと思っています。それにはこういう実習が不可欠だろうと思います。一方こちらもヘルパーさんがいるのに、職員さんとばかり口を利いたり、食事介助だのお茶を飲むときだの職員さんばかり頼りにする人もいます。ですから、あの実習はお互いに最高によかったと思います。かく言う僕もいい勉強になりました。もう一度こういう実習を企画して欲しいと思います。

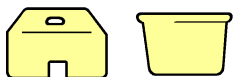
太田 稔

小さい頃の思い出はリハビリ訓練。義足で足がない友達がいました。のぞみの家ではおふくろ副会長やっていました。城南養護では野球クラブに入っていました。



警察にお世話になった思い出もあります。サイレン鳴らす車に乗って羽田空港から店の前まで。

昔はおふくろとお父さんと銭湯によく通いました。見えないようタオル巻いて抱っこされて風呂に。気持ちいい。深夜行きました。帰り道、おでんの良い匂いがしてきた。屋台の店入りました。うまかったです。



松本 恵司

虫めがね

『小さい頃の思い出』二回目です。担当者は太田稔さん、松本さん、吉田さん、和栗さんです。今回はどんな思い出話が聞けるのでしょうか。

僕は小さい頃から、プロ野球ファンです。ところが、今のようにテレビは勿論ありませんし、ラジオのNHK第2放送で一ヶ月に一回やるかやらないかの物でした。ですから、放送がある時などは、朝、目が覚めると窓を開けてもらい、天気を確認したり、朝九時からの全国の天気概況を聴いたりしていたものです。ところがたまに、北海道とか、富山県、石川県などと言った、地方球場で行われるときがあります。そうすると僕の心は大変です。母や祖父に「お袋、石川県でどっちの方にあるの？」とか「巨人が今、北九州市に遠征に出かけているのだけれど、どっちの方にあるの？」等々。母に聞いてそれが地理の勉強にも役に立った物です。小さい頃から野球が好きだったため僕は少しでも得をしたようです。



太田 稔

虫めがね

～つづき～

テーマ：小さい頃の思い出

どうも 日本人は、今日は何の日、とか、何々の日と言うのが、お好きな民族らしい。そこを、上手く狙って 商業ベースに乗せて、当時チョコレートの売上が落ち込んでた大手のチョコレートメーカーが、欧米では、バレンタインデーには、女性から、好きな男性へ、プロポーズの想いを込めて、花束を贈る風習があるという、この際日本独自のバレンタインデーを作ろうと、まず、人が大勢居るデパート と 大手チョコレートメカが、タイアップをして、若い女性に対し、バレンタインデーには、貴男のお好きな方に、チョコレートで、プロポーズを、ハートの形のチョコレート、試みに三千個を作り、デパートのお菓子売場で、一個五十円で華々しく売り始めたが、当日売れたハート形チョコレートは、たったの三個だけであった。昭和四十三年、当時は、若い女性のお小遣いでは、厚さ一センチ・八センチ四方の箱に入った、一個五十円の小さなチョコレートなんか、買えなかった。その三年後には、各お菓子のメカがバレンタインデーに、ハート形チョコレートを売り出した。



まだ、母に「ねんねこ」で、おんぶされていた頃、（と言っても、死語ですね。つまり、母の背中にさらしの布で、背負われて、真綿のハンテンのような着物を寒さ対策のために羽織っていた頃）、1歳から3歳ぐらいまででしたが、近所のおばあさんやおじいさんが、「かわいいね。」と言って、私に、お菓子や果物を手渡すと、私は、地面にほうり投げたそうです。今、考えれば、人の好意を無にした悪いガキでしたが、それにはそれで母の躰がわざわざしていたと思うのです。いつも、その当時、母に言われていたことは、「人から、物をもらったらいけないよ。口に入れてはいけないよ。ネコや犬の毛が付いていて、おなかが痛くなるからね。」等云々。だから、とても可愛くないガキだと、栃木県の母の実家の人たちは、思っていたことでしょうね。今の私だったらそんなガキは、ぶっとばしちゃうでしょうね。



和栗 顕太郎



吉田 久代



2月27日

【ビデオ鑑賞】

ビデオ『舞妓 Haaaan!』を楽しみました。舞妓さんに憧れているサラリーマンが繰り広げるドタバタコメディです。これを観て、舞妓さんに憧れる気持ちがわかりました。僕も京都に行ったら舞妓遊びがしてみたいです。



学習会報告

担当：佐久間



2月13日

【怖い話、クイズ】

前半は河原さんによる怖い話で、後半はクイズを行いました。作業所を暗くして、話しましたが、今回の話はそんなにも怖い話ではありませんでした。次回はもう少し怖くして欲しいというリクエストもありました。田村さんによる漢字クイズやなぞなぞ問題でかなり頭を使いました。本やネット上・ゲームから出題してもらいました。



3月5日

【英語、旗当てゲーム】

前半は河原さんによる英語で、後半は内田さんによる旗当てゲームをしました。海外に行ったときに、ためになる英語を教えてくださいました。旗当てゲームでは、旗がないということで、人口や面積などで、どこの国かを当てるクイズをしました。



ある	なし
ギフト	プレゼント
四月	五月
教頭	教諭
観光地	繁華街



答えは上にあるよ！

二月二〇日

【あるなしクイズ、コーラス】
 前半は内田さんと矢代さんによるあるなしクイズでした。2班に分かれて行いました。カンの良い人はすぐに答えが出ました。後半は YOU TUBE を使ってカラオケを楽しみました。みんなが知っている曲をかけて、歌いました。北島三郎さんの「祭り」や千昌夫さんの「北国の春」などを歌いました。「およげたいやきくん」を聞いて、最後食べられてしまう歌なので、昔はなんとも感じず聞いていましたが、じっくり聞くとはひどいよねと話していました。



高浜実習所報告

箸の内職を急いでやりました。六本木ふれあいまつりに出店する商品づくりをしました。テルベから注文が来ました。注文の多い人気商品はポチ袋、和紙しおり、和紙カードです。和紙はがきを制作するために使っている木の枠組みが古くなっているので、職員さんに新しい木枠を用意してもらいました。大きさを調整するためにやすりがけをしたり、ニスを塗ったりといろいろと大変そうでした。職員さん、ありがとうございます。水槽の中の水草がちよつと増えました。おさかなさんも、いごちよさそうです。



ミスターマリーンズ

港南実習所報告

三月二日（日）に高浜荘消防訓練を行いました。放水訓練や説明会・緊急用の食物（アルファ米で作られた五目飯や豚汁）の調理等を行いました。放水訓練は大半の方は駐車場で行いましたが、僕たちは三階会議室のベランダで簡単に行いました。説明会では緊急時の対処法等の説明や質疑応答を行いました。お昼は作った五目飯や豚汁等を食べました。午後は仕事をしました。

三月四日（火）から十日（月）まで芝病院に健康診断を受けに行きました。結構早く終わった方でした。

今職員さんが足りない状況です。ですので、職員さんになって下さる方を募集しています。関心のある方は風の子会までご連絡下さい。



田村 亮彦

夕会便り

五月末に行われる外へ出よう実行委員会へ、風の子案として出すキャッチフレーズを考えたり、港区にどんな名所旧跡があるかを地図で調べたり、メンバーの住んでいる家の近くに何か無いかなどを聞いたり、行ってみたい所は何処かなどを言ってもらったりしました。

太田 圭子



まだまだ大丈夫です！

第31次国会請願署名・募金運動



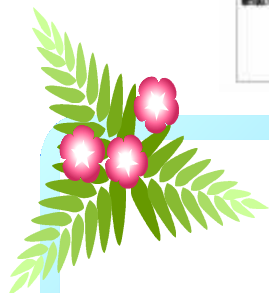
本物の出直しは
応益負担を
なくすことから

小規模作業所問題の解決を求めて
国会請願署名・募金に
ご協力をお願いします

きょうされん
第31次
国会請願署名・募金運動
全国キャンペーン
真箇中
2007年11月～2008年4月

各地で活動しています

よろしく
お願いします！



きょうされん（旧称・共同作業所全国連絡会） 第31次国会請願署名の経過報告

先月の会報で皆様にお願いしました国会請願署名ですが、多くの方のご協力により、沢山の署名と募金を頂いております。ここで、現在の署名数と募金額をご報告いたします。

3月8日現在
署名数・・・156筆
募金額・・・3万2514円

署名用紙を実習所にご郵送された皆様、再度署名にご協力下さった皆様、募金を下さった皆様へこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。
なお、署名は四月下旬まで行っておりますので、よろしくお願いたします。

署名用紙は高浜にまだございますのでご希望の方はご連絡下さい。

署名担当 丸岡秀明・矢代奈津三

母の思い出

第八回

太田 稔

今でさえ僕の主治医は言う「現代医学でも君の障害の、原因はわかっていても治療方法はまだ分からない。何しろ脳の中のことだからねえ」と言われたくらいだ。母はそれでもあきらめられなかった。少しでも良くなったという人がいれば、その人に会いに行ったり僕はずいぶん母に対して苦勞を掛けたと思つている。けれど母は言う。「稔、免ね、こんな体に産んじやつて。でも頭が普通だからまあいいか」と母は僕に謝る。僕は今考えてみると、僕は母に産んでくれたことを感謝するべきであつて、母から謝られる覚えは全くない。そこが彼女の人の人柄なのだろう。話をまた少し前に戻そう。母は太田家から少しもらつたお金で青山に土地を百坪買った。当時は家より土地の方がやすかつた時代だったからこそ母はもらつたお金で土地を買えたのだ。そしてそこに祖父が家を建てた。それから二回ほど建て直しはしたものの、僕は青山に現在まで五十五年住むこととなる。そして青山に引越す日が近づいたある日、母は僕と妹を呼んで「これから引越すところはね、お屋敷町なの。だから貴方は上品な言葉遣いに気をつけなければいけないわ。だからお父ちゃんお母ちゃんと呼んでいたので、お父様、お母様と呼ぶようにしましょうね。勿論お祖父ちゃんはお祖父様、お祖母ちゃんはお祖母様というようにね。それから美知子、お兄ちゃんのことはお兄様と呼ぶのよ」そう母から言われた僕たちはちよつと困つてしまつた。そう言われても急にそんな上品な言葉遣いが出来るだろうか、僕は少し心配だつた。それを母に相談すると「大丈夫よ、初めはちよつと言にくいかも知れないけれどすぐになれるわよ」母は「こゝ笑いながらそう答えてくれた。それ以来、僕と妹は上品な言葉でなるべく会話を始める。そして我々五人家族は青山に引越して来たのだ。たつた一間の四畳半の暮らしから八畳と六畳それに風呂場と台所玄関までが作られてあつた。今では当たり前話だろうがあの頃はそれだけの設備がある家はなかなかあつたようだ。妹は余程嬉しかつたと見えてトイレにはいると歌を歌い始めた。それを聴いた祖母と母は「あの子余程前の家では氣を遣つていたんだろかねえ」「そうよねえお母さん、美知子は氣を遣わない娘かと思つていたので、やっぱり普通の女の子なのね、よかつたわ」この頃の母が、僕の目から見る限り一番幸せだつたのではないだろうか。それから半年くらい経つた頃からお金を使い始める。太田家でもらつたお金の大半は土地を買うのに使つてしまつている。どうして親と子供達を食へさせていけないのだから。そんなある日母は何気なく新聞を開いた。銀座のクラブのホステス（昔は女給と言つた）募集のCM記事だつた。これを見て母は考えた。（今なら子供も小さい、美知子が学校へ上がるまで後二年ある。この二年間の間に銀座のホステスとして働いて何か商売を開く資金の一部にしよう。幸い遺族年金の普及も決まつたことだし、でもたつた一つ心配なことがある、私はお酒が一滴も飲めない。まあいいか、飲めなくてもおしゃべりぐらひは出来る。お酒の飲めない女給が一人ぐらいい銀座にいてもおかしくないか）母はそう決心してクラブ勤めを始めた。だが祖父は何も言わなかつたものの祖母と僕は反対だつた。祖母の反対理由は、「高級な和菓子屋の勤めるところじゃないよ。そんなところに行つたら私たちの恥だから辞めておくれ」というものだつた。僕の反対理由はこうである。「お母様が夜いないなんて僕怖いんだ。（僕は十二歳ごろまで時々ひきつけを起こしていらつた。だからお母様昼間のお仕事見つけて）だが母はあの頃の就職状況を良く把握していらつた。（今私が祖母と稔が氣に入つた仕事をするとしてたら絶対に四人では食へてはゆけないわ）母はそう決断したのだ。

次回に続く

わたるのドミトリライフ

【ドミトリとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第7話 寮生の何気ない一日（前編）

朝、起きて服に着替える。その日に受ける講義のテキストを鞆に詰め込み、部屋を出て階段を降りる。1階の食堂に入り朝食を食べる。低血圧は朝が弱いとよく聞くが、実際のところ本当にそうなのかはわからない。けれども僕は確かに低血圧で朝が弱かった。回転しない頭を必死に動かし、口に飯を放り込む。1年のはじめの頃は先輩が多くて緊張感が多少あったが、夏休みを過ぎた頃にはそんな緊張感も次第に薄らいでいき、朝から元気ににぎやかに食事をしている1年を横目に見ながら、時間は次第に過ぎていく。

なんとか朝食を済ませて食堂を出て、階段の脇に停めてある電動カートに乗り込む。寮から学内へは5分とかからない距離だ。マルポロをふかしながら学部棟に向かう。学部棟は7つあり、その日に受ける講義によって行く棟が異なる。新しくできた建物ならある程度のバリアフリーもあるが、大学の建物というのはだいたいにおいて古いものである。エレベーターなんてあるはずもなく、そういう棟の2階や3階の教室へ行くためには誰かの手を借りなければならない。

「すみません。2階の203号室まで行きたいのですが」カートを棟の入り口近くに止め、そばに置いてある車椅子（いつでも使えるようにと予め家の車椅子をそこに用意しているのだ）を指さしながら、通りすがりの生徒に尋ねる。何人かの生徒が集まり、車椅子を2階まで上げ、教室まで押してもらう。この大学は障害をもつ学生も多く通っているので、そういう手助けが自然に出来る環境がもともと備わっているらしい。だから僕も、自然に大学生活に馴染めたのかもしれない。

一つの講義時間が100分あり、1時限が9時に始まって10分の休憩時間を挟んで2時限目が終わるのが12時半。それから昼食の時間となる。昼食は学内の生協で買うか、その向かいにある軽食コーナーでファーストフードを食べるか、あるいは食堂で食べるかの3つだ。僕はたいてい食堂で昼食をとる。ランチタイムの食堂は学生たちでごったがえしている。この食堂は学生の数と比べてテーブルの数が少ないように思える。だからランチタイムは席を確保するのがとにかく大変だし、2限目の講義が長引いてしまうと食堂でゆっくりと食べるということは絶望的になってしまう。

当時の僕は自分でいうのも何だが食欲がやたらと旺盛だった。今と比べると食べる量は倍近くあったと思う。満員電車の車内のように混雑している食堂で、午後の講義まであまり時間がないなか、カレーライスとスパゲティミートソースを注文し、それを5分強で食べ終えて急いで午後の講義へと向かったときには我ながら自分の食欲に呆れたものだ。

昼食を済ませ、一服してまた午後の講義に向かう。午前とだいたい同じような流れで午後は3限と4限がある。1, 2年のうちは取らなければならない必須科目が多く、月曜から金曜まで目一杯に講義を受ける。社会学やら経済学などの一般教養、語学、1年には体育も必須としてあり、すべての講義をきちんと受けると週末にはくたくたになってしまう。

～ 後編につづく ～

スケジュール

3月12日（水）・・・運営委員会
3月25日（火）・・・総務部
4月15日（火）・・・運営委員会
5月10日（土）・・・外に出よう代表者会議
5月17日（土）・・・外に出よう全体集会
5月25日（日）・・・外に出よう
5月26日（月）・・・振替休日
6月 1日（日）・・・外に出よう雨天延期予定日

寄付のお礼

（二月十日～三月八日）

賛助会にご賛同下さった方

松本浩美様 松本みづえ様
長野松男様 綱島辰也様

誠にありがとうございました



休載のお知らせ

大変好評を博しております、
和栗顕太郎さんの連載
「シベリア出兵秘話」は、
今月号休載とさせていただきます。
来月号には
再開予定ですので、しば
らくお待ち下さい。
また、各連載のご意見、ご感想
等お待ちしております。



職員募集中です！

ただいま風の子会では男性の非常勤職員さんを募集しています。送迎キャブの運転、食事介助、男性の着替えやトイレ介助、作業介助など、仕事は多岐に渡ります。火・水・金・土の作業所での活動の他、各種イベント参加のため、日曜日に活動することもあります。

体力があり、障害者福祉に興味があれば年齢・経験は問いません。どうぞよろしく願いいたします。

勤務時間 9:00～17:00（土のみ18:30）
時給 1000円
運転手当、社会保険等完備

※詳細はお問い合わせ下さい



編集後記



今、思えば、（いいえ、今でも）私は、全く、「空気の読めない女」です。だから、苦勞もせず、生きてこられたような気がしていません。人生に険しい山も坂もありませんでした。すごく「自己中心的」な私なんです。たとえば、失恋歴は、数々ありますが、何故、別れることに至ったのか、まったく覚えていないのです。その時の空気がまったくて、よく喧嘩するたびに言われました。「お前には、帰るとこ「あ、そう！」とつれない言い方をしたけれど、相手に対して、憎しみはなく、ただ、その場の空気が読めなかっただけなんです。つまりは、空気が読めないということ、思いやる心が、いっつくしむ心が、欠如しているという結論になりました。（もちろん、私だけの考えですが）。皆さんは、どのように、思いますか？



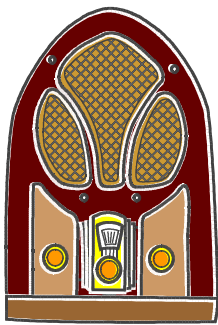
吉田 久代

僕は最近自分の力で外出することに凝っています。今までは母が僕の外出等の手助けを色々手伝ってくれていました。最近、それが不可能になってしまった為、ここ最近、電車やバス等の公共の交通機関を使って、一人で動いています。どれもこれもこの歳で初めてだったのが驚きと不安でいっぱいでしたが、だんだん回数が増えることでそれも慣れはじめ

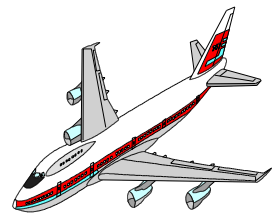
てきました。僕がこれまで一人で行ってきた中では、一番遠かったところは成田空港です。僕は今後も普通では考えられない「障害者一人では危険だろうか？」といわれる所に自分のそれが一つのチャレンジとして制覇出来るようにしたいと思えます。

私は、古き良き時代の物を趣味として集めています。詳しいことは、又の機会に書きたいと思います。今回は、先日買求めた、懐かしい戦前戦中歌謡大全集と言うCDについて書きます。戦前、戦中派の私にとっては、幼頃母に抱かれて聞いた歌が、当時のレコードの針の音とともに、聞き覚えのある懐かしい歌の歌声とが、母の温もりと共に懐かしさよみがえって思わず目頭が熱くなり涙がこみ上げてきました。又、昭和十五、六年頃は、まだ恋の歌や失恋の歌が、軍歌や戦時歌謡より好んで歌われていました。戦中時代の歌を聴くと、思春期の時のことを思い出します。昔の歌を懐かしく聞くと、つくづく年を取ったと想う今日この頃です。

和栗 頭太郎



天海 隆一



ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会

～定価40円～

編集者
 天海 隆
 太田 圭子
 佐久間 稔
 田中 聡
 三村 亮彦
 直人 恵司
 久代 磨子
 和栗 頭太郎
 右田 摩子
 松本 恵司
 小野塚 航
 太田 圭子

編集人：【高浜実習所】 〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜302
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

【港南実習所】 〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜301
 TEL 03(5479)7155 FAX 03(5479)0180

ブログ：<http://www.kazenokokai.npo-jp.net/>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21

